

令和5年度 第3回大田区SDGs推進会議 議事録

日時	令和6年1月22日(月) 午後4時00分から午後5時30分まで	会場	大田区役所本庁舎 201・202会議室
出席者	■村木会長 ■高木副会長 □小林委員 ■北村委員 ■磯委員 ■高橋委員 ■出席 □諏訪委員 ■海老名委員 ■齋藤委員 □欠席 □大木委員 ■山田委員		
傍聴者	6名		
配布資料	資料1 大田区SDGs推進会議委員名簿 資料2 令和5年度第2回大田区SDGs推進会議 議事要旨 資料3 事務局資料 資料4 事務局資料 資料5 事務局資料(来年度の推進会議について(案)) 参考1 大田区SDGs未来都市計画		
次第	1 開会挨拶 2 議題 (1)SDGs認証制度について (2)・大田区オリジナルSDGsロゴマークについて ・SDGsの達成に向けた区民、企業、関係団体等の行動変容について 3 来年度の推進会議について(案)		

1 開会挨拶

○野村企画調整担当課長

ただ今より令和5年度第3回大田区SDGs推進会議を開催いたします。本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。私は、本会議の事務局を務めさせていただきます企画調整担当課長、野村と申します。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は、諏訪委員、小林委員、大木委員の3名が欠席となっております。なお、本日の会議は議事録作成のため録音させていただきます、議事録は後日、区のホームページで公開させていただきます。

では、会議の開催に当たりまして、企画経営部長の齋藤よりあいさつをさせていただきます。齋藤部長、よろしくお願いいたします。

○齋藤委員

本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

前回会議は、企業向けの行動変容を促すということでSDGsの認証制度に

ついて議論をしていただいたわけでございますけれども、今回は、そのことについて議論を深めていただくと同時に、SDGs未来都市計画の視点をどのように盛り込むかというところについても、ご意見、伺えれば幸いです。

それから、SDGsの大田区の独自のロゴマークの作成を実施しておりまして、区民の皆さんから募集をしたところ87点の作品が集まりました。その中から5点に絞り、審査委員会をつくりまして、村木会長、それから海老名委員にご協力を賜りまして審査したわけでございますけれども、その区民投票を経ましてマークがこのたび決定して、その受賞者の方が区立中学校の2年生という、大変、若い力ということでございました。

それで、実は昨日、区長の方から海老名社長にご協力いただいた記念品を贈呈させていただいて、その授賞式を実施させていただいたところでございます。この様子は、また後ほど、ご報告させていただきますが、ロゴマークも決まりましたので、より一層、SDGsの啓発に力を入れていきたいというふうに考えてございます。

それから、その他、今後の取組など皆さまがたから忌憚のないご意見いただければというふうに考えてございますので、どうぞ本日もよろしくお願い申し上げます。

○野村企画調整担当課長

では、続いて本日の資料ですが、ペーパーレス推進の観点から、前回会議に続き、お手元のタブレット、または会場内のプロジェクターにより資料をご覧いただく形とさせていただきます。

タブレット配信資料につきましては、次第、それから資料1として委員名簿、資料2として前回の議事要旨、それから資料3、4としまして議事に関わる事務局資料、それから資料5として今後の予定に関する事務局資料、最後に参考資料として大田区SDGs未来都市計画を格納してございます。

なお、委員の皆さまの机上にはタブレットの操作マニュアルを配布しておりますが、後ろに職員も待機しておりますので、何か操作に不備がございましたら、お声掛けください。

それでは、議題に進みますので、進行を会長にお願いさせていただきます。村木会長、よろしくお願いいたします。

2 議題

○村木会長

どうぞ、今日も活発なご議論をよろしくお願いいたします。

それでは、早速ですが議題1、SDGs認証制度についてについて、事務局からご説明をお願いします。

○野村企画調整担当課長

では、事務局資料について説明いたしますので、資料の3をご覧ください。今、プロジェクターの方でも投影してございます。

本日は、SDGs認証制度について前回会議でいただきましたご意見をもとに、事務局の方でもう少し具体的に検討を進めましたので、現時点の検討状況について説明し、その後、今後の方向性についてご意見をいただければと考えております。

こちら、資料の2から4ページでは、前回会議でも使用しました認証制度に関する内閣府の資料を、おさらいの意味も込めて掲載してございます。前回と全く同じものですので詳細の説明は省略させていただきますが、3ページや4ページに記載のありますとおり、宣言、登録、認証という三つの形に分かれている点が主なポイントとなっております。

続いて、資料5ページをご覧ください。前回会議で、既に先行して認証制度を構築し、数多くの企業を登録している川崎市にヒアリングを行い、良い部分は参考にするなどしてはどうかといったご意見がございましたので、川崎市の認証制度を調べましたので概要を報告させていただきます。

まず、制度の枠組みにつきまして、資料右上に記載のありますとおり、川崎市は内閣府の分類でいうところの宣言および登録を採用しており、第三者機関の評価が必要な認証は採用しておりません。インセンティブとしては、資料の中段に記載のありますとおり、川崎市SDGsプラットフォームへの参画やホームページでの紹介、融資制度における信用保証料補助や入札時の加点などがございます。宣言・登録団体数は3,288団体と非常に多くなっており、人口規模の大きな自治体ということもありますが、早くから着手していらっしゃることや、認証ではなく登録までの制度とし、迅速に登録作業を行っていることなどが数の多い要因かと思われまます。

なお、右側の川崎市のホームページでは、登録・認証制度という言葉が使われておりますが、先ほど申し上げたように、内閣府の分類では第三者機関が評価を行うものを認証としており、この分類に従うと川崎市の制度は登録に該当しますが、やはり認証の方が分かりやすい制度だったのか、実態としては、登録制度であるものを認証制度という名称にしている自治体も一定程度あるようです。

続いて、資料の6ページをご覧ください。では、こちらの6ページでは、前回会議で小林委員より、北九州市がSDGs未来都市計画と関連付けた形で認証制度を構築しているとのご発言がありましたので、北九州市の制度概要についても説明させていただきます。

資料右上に記載のありますとおり、北九州市は登録のみの制度となっております。その最大の特徴としては、未来都市との関連付けを明確にしていることであり、資料の右側に記載のありますとおり、チェック項目の下の階層にある各具体的な取組内容について、申請する企業が未来都市計画の関連する取組

や指標を記載する形となっております。インセンティブは、入札時の加点や融資制度の適用、ホームページを通じたPRや金融機関からの支援などがあります。登録団体数は648団体となっており、未来都市計画を登録企業に意識していただき、重点的に進めていくという観点からは、北九州市のような未来都市計画と関連させた制度も良いかと思われまます。

続いて、資料7ページでは前回会議でも紹介させていただきました横浜市および豊田市の概要を掲載しておりますが、それぞれ認証制度を採用しており、登録団体数は横浜市が674団体、豊田市が43団体となっております。登録団体数は、自治体の規模や認証制度を開始した時期にもよりますが、認証よりも登録の方が、より迅速に審査ができるため、一般的に同規模の自治体ですと認証よりも登録の方が参画企業数は多くなる傾向があるようです。

続いて、資料の8ページでは、この登録と認証のフローの違いを記載しております。資料上段に記載がありますとおり、登録の場合は企業から申請があった際に行政職員のみで審査を行い、認められれば登録という形になりますが、認証の場合は受付後に審査を第三者機関が行い、それらを踏まえて行政が認証の決定、登録という形になります。認証には、第三者による客観的な評価ができるというメリットがある一方で、第三者による評価の場を設けなければならないため、どうしても登録よりも時間がかかってしまうというデメリットもありますので、どちらを採用するかについては、スピード感や登録企業数を重視するか、それとも認証段階での正確なチェックを重視するかにもよるかと思えます。

以上が登録、認証についての説明でして、続いて評価項目について資料9ページ以降で説明させていただきます。

9ページに掲載しておりますのは、昨年度、推進会議の皆さまにご協力いただきながら固めた、未来都市計画における2030年のあるべき姿です。前回会議では、未来都市計画からバックキャスト的に認証制度を構築してはどうかといったご意見がございましたので、この後、未来都市計画と連動させた評価項目の例をお示しさせていただきます。

9ページでは、経済、環境、社会のそれぞれの姿について、左側の方に①、②、③のような形で便宜上、文章ごとに番号を振ってございます。

このあるべき姿ごとに評価項目を整理したものが資料の10ページとなります。表の中の基準例の一番上のデジタル化による生産性向上は、表の右側の未来都市計画の対応箇所では、先ほどの2030年の経済の姿の1文目に該当、基準例の上から5番目の水素などのクリーンエネルギー活用に向けた取組を推進または検討しているは、環境の姿の二つ目に該当という形で、未来都市計画のあるべき姿に沿って整理しております。

このような形で、未来都市計画に沿った形で評価項目を整理することも考えられるかと思いますが、表の下段では、未来都市計画にストレートに関連するとは言えない評価項目もあえて挙げております。例えば、女性の活躍を支援

するための取組があるにつきましては、そういった取組を行っている企業につきましては、未来都市計画に直結しないとしても、そういう取組をしっかりと評価すべきとも考えられますし、このページの下の上三つでは関連するゴールとして5番、10番、6番、16番を挙げておりますが、この四つのゴールと上段のゴールを合わせることで全17ゴールを押さえることも可能となります。

前回の会議では、未来都市計画を意識した認証制度にした方が良いというご意見が多くありましたが、本日の意見交換では完全に特化させるべきか、それともこの資料のように未来都市計画を主な評価項目とした上で、その他の17ゴールに関する項目も一定程度、盛り込むべきかといった、認証制度において未来都市計画にどの程度、比重を置くかという点についてご意見をいただければと考えております。

続いて、資料の11ページをご覧ください。こちらでは、認証制度のインセンティブや今後のスケジュールを示しておりますが、スケジュールの部分に記載のありますとおり、本日の会議で認証制度の方向性を提示させていただいた後、来年の6月頃に予定しております第1回の来年度の推進会議で、今回の意見を踏まえながら、しっかりと事務局から具体的な制度案をお示しさせていただき、そこでいただいたご意見を踏まえて、その後、年度途中で速やかに認証制度を開始させていただく形で考えております。

また、このスケジュールの4月の部分に、こちら、体制強化とありますが、前回会議で、未来都市計画の進行や行動変容を本気でやっていくのであれば、それに応じた体制強化も必要ではないかとのご意見がありました。そこで、来年度から新たにSDGs未来都市推進担当課長を新設し、強力でSDGs推進の取組を進めていくこととしました。係長級以下の担当人員等については現在、検討中ですが、しっかりとSDGsを推進できる体制を整えてまいります。

最後に、資料下段の参考情報として、川崎市の認証制度のヒアリング結果を共有させていただきます。3,288団体という多くの登録企業数を誇る川崎市では、2022年のピーク時には1,000社を超える申請があり、それらを全て手作業で行っていたため、応援で職員を追加しなければならないほど膨大な業務量が発生していたそうです。ただその後、この資料にも記載がありますが、かわさきSDGsポータルサイトといったものを開設しまして、このシステム上で受付や最低限の確認等を行うことを可能としたため一気に業務量が削減した、そういった形で話を伺っております。今回、大田区が認証制度を構築するに当たっても、区の中だけで考えるのではなく、先行自治体の課題やノウハウなどをしっかりと踏まえながら、効率かつ適切な形で制度を構築していきたいと考えております。

では、この後、意見交換のポイントを説明させていただきますが、その前に、前回の会議で海老名委員の方から経済産業省のGXリーグに関するご発言があり、その際、産業経済部の大木より、次回会議までに研究して報告する旨の

回答をさせていただきました。先日、経済産業省の担当にGXリーグについてのヒアリングを行ってまいりましたので、本日、欠席の大木に代わりまして、産業振興課長の臼井より簡単に報告させていただきます。臼井課長、よろしくお願いいたします。

○産業経済部 臼井産業振興課長

資料をご覧ください。経済産業省にヒアリングを行った結果を1枚にまとめさせていただきました。上段の方にいくつか文章を記載させていただいておりますが、記載のとおり、GXリーグは日本のCO2排出量の5割以上を占める企業群ということで、568社が現在、参画しているということでございます。

EUの取引制度の場合は義務付けられているということですが、日本のこのGXリーグの場合は義務付けまではなっていないということですが、結果的に日本のCO2排出量の5割以上を占める企業群が参画していることは、EUの取引制度と同等、同水準であるというふうに聞いているところでございます。

このGXリーグに参加した、参画している企業が、まず何をするかというところが、下段の左側に、参画企業に求められる取組ということで①、②と記載をさせていただいておりますが、こうした取組を、まず個社で取り組むということになっているそうです。その後、下段の右側でございますGXリーグでの主な活動ということで、個社の取組をベースにしつつ、このリーグに基づきまして排出量取引の実施をしたり、このGXリーグによってルールメイキングをしようと、そういうものを検討するような場にしようということで、このリーグの方を活動させていきたいというふうに聞いてきました。現在、こちらの方、新たな参画企業の募集の準備も昨年12月段階では進めているという話も聞きました。

また、新聞報道ではございますけれども、今後、GX推進法に基づきまして、政府の方がGX債を発行するとなった場合に、基本的には、このリーグに参画している企業、こちらの方に政府支援を積極的に行っていくというようなこともございました。こちらの方に参画している企業は、必ずしも大手企業だけではないというところでは聞いておりますが、基本的に、やはり国内でCO2排出量のかなり多くを占める企業が積極的に参画しているという状況ありながらも、業種、業態によっては一部、参画がまだ少ないようなところもあると聞いております。

また今後、こういった取組、座組みを生かして、どのようなことができるかというところもまだ検討している部分もあるそうで、そういう意味では、経済産業省としては、このGXリーグを走りながら整えていくような要素もあるのかなというふうに感じてきたところでございます。簡単ですが、以上です。

○野村企画調整担当課長

ありがとうございました。では最後に、意見交換の前に、本日の意見交換のポイントについて説明させていただきます。本日は、SDGs認証制度の評価基準について、未来都市計画にどの程度、比重を置くべきかを中心にご意見を

いただきたいと思います。先ほど、資料の10ページではデジタル化や水素など具体的な審査項目も挙げさせていただきましたが、現段階の審査基準は、あくまで未来都市計画に沿った形での整理をイメージしていただくために分かりやすいものを仮置きしたものでございまして、具体的な項目や表現は今後、精査してまいりますので、本日は例示の評価項目の文言の妥当性というよりは、大枠の方向性についてご意見をいただければと思います。ただ、もし現段階でこういう項目がいいという具体的なご意見ございましたら、そちらもご発言いただければと思います。

また、認証の仕組みにつきまして、宣言、登録、認証の、どの仕組みで進めていくべきかについても、ご意見がございましたら、ご発言いただけますと幸いです。

その他にも、インセンティブなど認証制度に関するその他のご意見や、また認証制度以外で未来都市計画を推進していくためにはこういう取組が重要だといったご意見がございましたら、その旨、ご発言いただきますようお願いいたします。では、事務局からの説明は以上となります。

○村木会長

ありがとうございました。それでは、ここまでご説明いただいたんですけれども、皆さまから意見やご質問をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○高木副会長

まず、認証の仕組みについて一つ、大枠のご提案ですけれども、これは、一体、今、大田区の企業の皆さま、団体の皆さまがどのような状態に置かれているのかというのを分析するのが必要だと考えています。

例えば、まだSDGsに取り組みたくてもほとんど取り組めていないとか、SDGsをそもそもご存じないという状態であれば、宣言の段階。例えばですけれども、ある程度、知っているけれども、具体的に取組を進めていかなければならないとか、そういうことを考えておられるなら登録。それらをもうクリアしていて、かなり取り組んでいるけれども、例えば中小企業版のSBTとか、かなり高度な内容を知りたいとか、そういう方がいらっしゃるのであれば認証とか、難易度ごとに整理をしていくというような方法もあろうかと思います。これを、1年目は例えば宣言のみとか、宣言と登録のみとか、2年目、3年目に認証に進んでいく、こういう動きを付けていくことも、参加していただく企業さん、団体さんに動きを見せていくためには非常に重要なのかなというふうに思います。

二つ目に、インセンティブ等の設計ですけれども、10ページの基準例をつかっていただいて、大項目としては、賛成できますが、例えばデジタル化による生産性向上を推進するとありますけれども、これを中小企業の皆さままで例えば推進するならば具体的に何ができるのかとか、そういったところまで落とし込ん

でガイドブックを作成するなり、チェックリストを配布するなり、セミナーを開催するなり、多面的にご支援をしていくことが必要だと思っておりますので、その辺りも併せて考えていくことが必要かなと考えております。

○村木会長

ありがとうございました。高木さんのご意見に質問させていただきます。最初のタイムラインのところの話がありましたが、現況を、どのぐらい企業さんがSDGsのことを知っているのかといったアンケート等をした上で、それを聞いて宣言、登録、認証っていくのは、最初から認証までいける企業と、そうでないところもあるし、もしくは大田区として最初、宣言からスタートして、だんだん進化していくっていうのもあると思います。仕組みとして、どちらがよいとお考えですか。

○高木副会長

これは、状況にもよりますが、未来都市に選ばれているというところまで鑑みますと、認証まで進んでいくっていうのは一つ、他都市をリードするという意味では重要と考えています。ただ、認証というのは難易度が高く、取り組む側の難易度と、事務局側のある程度、取り組む量っていうのが非常に多いので、そこは総合的に検討かなと思っています。

○村木会長

今のお話を聞きながら思ったのが、出だしは宣言からスタートして何年後に認証を受ける会社がいくつぐらいあるとか、そういう目標値みたいなものを設定しつつ、区内の企業、みんなでSDGsに取り組みましようというような方向性を出していくのも未来都市としてはいいのかもしれないなと思いました。時間軸と、どのようにやっていくのか、あと、どのような支援していけばいいのか、そんなことも踏まえながら考えていくと良さそうだなと、高木さんのご意見を聞きながら思ったりしました。

○齋藤委員

高木副会長、村木会長の言われたことはごもっともだと思っていまして、段階を踏むことも重要だなというその一方で、SDGsの目標年次からすると、あと6年しかないっていうことがあるので非常に悩ましい。何年か後に認証といっていると、もう残り時間が少なくなってしまうので、その部分についてどう考えたらいいいのかなっていうのが、我々が悩んでいるところです。そこをご助言いただければ幸いです。

○高木副会長

SDGsの目標年次は、確かに2030年というのは間違いございませんので、今、

部長がおっしゃったとおり急ぎ進めていかなければならないですが、土台を構築せずにいきなり進んでいくと、土台ごと崩れるのではないかと、私はちょっと懸念もあります。ある程度、そこは1年、2年のずれであれば丁寧に進めていって、SDGsだけでなくサステナビリティという、もう少し大枠も踏まえながら検討していった方がいいのではないかなど、この時期であれば思います。

○村木会長

ありがとうございます。恐らく名称は変わったりして、何らかの形で続いていくし、名称が変わったとしても、こういう取組をしていくこと自体、悪いことではないので、そういった柔軟な対応ができるようなことを目指す、検討するのもいいかもしれません。他、いかがでしょう。

○海老名委員

一過性のものにならないように、6年間だけの活動ではなくて、永続的にどうやって続けられるかっていうのがあるので、先ほど副会長がおっしゃったとおり、宣言から登録、認証っていうことで、少しマイルストーンを置きながらできるとよいと思います。6年後のところでは、その先もどうやって続けるかということで、恐らくSDGsに取り組んでいる企業がどれだけあるか、皆さんやりたいっていうことでは入口のどこから認証までしたときに、どれだけ挑戦的な、そういう企業が増えていくかっていうのが最終的には、その企業の永続性にもつながってくるのかなと思います。何かそういう鍛えられる筋肉質な、そういう制度になることが、厳しいかもしれないですけども、それぐらいやらないと挑戦していく意味がないかなと感じます。

○村木会長

ありがとうございます。他、ご意見いかがでしょうか。

○北村委員

今、副会長、会長のおっしゃっていただいたことにつながるかなと思います。私どもは、そのお客さまの支援をいろいろ取り組みたいと思いながらやっていますが、ある意味、認証のレベルのことを仕掛けてみようかなっていうのが、手前どもで言えばサステナビリティ・リンク・ローンの取組になります。しかし、その取組ができるお客さまが、まず少ない。あと、担い手である営業の現場の担当者の理解もまだ足りていなくて、まさに土台が崩れると副会長おっしゃっていただきましたが、土台をしっかりと上のところ引き上げていけないといけないと取組主体の母数が少ない。我々で言えばSDGs宣言を、お客さまに課題の整理をしていただいて、そういったものの作成を支援していますが、その母数を増やさないと、レベルの高いとこにいけないのではないかと、改めて思っているところです。

他行さんで、特に西日本の方の銀行では、SDGs宣言とかサステナビリティ宣言みたいなものを年間100社以上、作成支援をお手伝いされている銀行があります。多分、その土台をすごく一生懸命やっていて、そこからこういうサステナブルファイナンスであったり、サステナビリティにつなげていくような取組をされているのかなと思っています。6年に一旦はこだわらなければいけません、サステナビリティの観点からすれば永続的にということは必要かと思うので、土台、段階を上げていくってことは大田区さん全体にとって、産業界全体にとってはプラスなんじゃないかなという気がしました。

○村木会長

ありがとうございます。あまり2030年にこだわらない方がよい、将来を見越した方がよいというふうに思いましたが、他、いかがでしょう。

○磯委員

中小企業のSDGsの認知度が僕は高くないと思っています。土台としてはまず認知度を上げていく必要があると思います。

僕らは横浜のいろんなメーカーなり業者と付き合っていますが、横浜は、もう急いで登録ぐらいまでがanganやっていますよね。結局それは、一つには総合評価方式の加点だとか、金融面とかのインセンティブを横浜市でやっていると聞いています。ですから、大田区ももう少し認知度を上げるにはどうしたらいいのかなっていうのを議論しないといけない、また、やっぱり登録まで急いだらどうかと。それには、色んなインセンティブを考えるのがいいのではないかと気がしております。

○村木会長

ありがとうございます。登録でも認証でも、そこまでいく前に、インセンティブがないと人は動かないのは確かにそうですね。他、いかがでしょうか。

○齋藤委員

認知度の話が今出ましたので、国のアンケートで大田区民がSDGsに関する認知度の理解がどれくらいあるかのを、今、画面に映しました。左側、SDGsに対する認知度については、51.6%が内容まで含めて知っていた。内容は分からないが聞いたことはあるが31.8%ということで、二つ合わせて8割を超えています。これは一般区民の方で、企業さんではないですけど、このような結果になっています。それから、右側の方が意識と行動に関する設問でございまして、これがなかなか行動に結び付いているという答えにはなっていないのですが、SDGsを意識し、行動にも気を付けるようにしているが34.7%という状況にあります。

○高木副会長

ありがとうございます。このアンケート調査を拝見したときに、確かに一定程度、認識というのは高まったように思いますが、ある程度、細分化して分析してみると、実は年代にかなり偏りがあってとか、あとは業種によって知っている、知らないがあるとか、その辺り。これはディスアグリゲータッドデータというのですけど、かなり細分化したデータで分析していくことをすると、磯委員がおっしゃったとおり、例えば特定の業種の方は全然、存じ上げてないとか、ご存じでないとか、その辺り、アプローチできる層が見えてくるのかなと思います。

○村木会長

ありがとうございます。もしもこの先アンケート等をするのであれば、そういった細かい、誰が回答しているかという属性が、もう少し取れるような形でアンケートを取ると、どの部門だとSDGsを意識した行動とか、SDGsの認識があるとか、それに対して一体、何をやっていけばいいのかを考える際の参考になりそうなアンケートをしていただくといいかもしれませんね。

皆さん、最後のページに出てきた意見交換のポイントがありますけれども、本日、宣言、登録、認証の仕組みの話が割合多かったと思いますが、未来都市計画にどの程度比重を置くべきか、この辺とか、それからあと一番最後のインセンティブの話も、何を付けたらインセンティブとして機能するかとか、どの辺りでも結構ですので、この意見交換のポイントを少し見ながら頭に置いていただいて、ご意見いかがでしょう。

○磯委員

まさに横浜市の件ですね。宣言、登録、認証の3段階に分けてのやり方は確かに早いですよね。それにインセンティブを重ねるやり方がいい方式かなと思います。

○村木会長

ありがとうございます。どのようなインセンティブがあるといいでしょうか。

○磯委員

横浜市の事例になりますが、入札に関してプラスアルファが出て、ここは企業としては一番の話ですよ。それから、ここに出ているように、そういう人たちには金融関係にもっとコンサルティングしてあげるとか、そういうのはかなりインセンティブとしては乗ってくると思います。こういう時代ですから、やっぱり金融だとか、それから前回も言いましたけれども、人材募集のために、もっと区内、そういうところの応援してあげるとかのインセンティブを付けたら、企業は乗ってくると思います。

○村木会長

ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

○山田委員

インセンティブでいくと、このエッジを利かした大田区の計画というと、やっぱり羽田ということになっていくと思います。羽田のイノベーションシティのPiOパークの優先的な利用だとか、そういった特典や、そこでビジネスチャンスに出会える機会が増えるだとか、事業承継とか、様々あると思います。あとは産業振興協会の方で実施している優工場とつなげてみるとか。磯委員もおっしゃったように、総合評価の方での加点は全国どこでもできるようなやり方だと思うのですが、うちの中でのエッジの効いたっていうのは、そういったところをインセンティブに入れていくことが、大田区ならではかなと思いました。

○海老名委員

インセンティブの事例で豊田市が載っていたと思いますが、このカーボンニュートラルの補助率・補助上限額の上乗せは製造業としてはありがたいと思います。東京都にも結構、充実した補助があるので、それより充実したものが大田区でできるかどうかは難しいかもしれませんが、逆に東京都と掛け合って、そういったインセンティブを大田区と連動しながら推進させるような仕掛けができると、企業としては大変ありがたいと思います。

○村木会長

6年しかないということを考えると、アンケートまでしなくても、特定の人に伺って、それをもとにやる方がいいのかもしれないですね。

○高木副会長

川崎と横浜は、恐らく、ほぼ同じ時期に制度を開始しましたが、川崎の登録団体の数で見ると2,808、横浜にすると674と、かなり差があるので、これは同じインセンティブを恐らく与えているとは思いますが、これだけ数が違うのであれば、そして横浜の方が人口規模が大きいので、何か理由があるのではないかと思います。これが果たして先ほど申し上げたような、かなり手厚い支援とかプラットフォームを大田区の上につくって仲間を増やしているとか、この辺りの要素も検討していく必要があるのかなと思いました。

○村木会長

非常に大事な点ですね。同じ時期にやったのに、全然、登録者数が違うっていうのは、なんか意味があるはずだと。その裏を探れと、そういうことですね。

○野村企画調整担当課長

横浜市と川崎市は認証、登録制度の違いもあるかとも思いますが、一方で川崎市は、先ほど説明しました手作業が、一気に作業が簡易化したという「かわさきSDGsポータル」が、職員側がやりやすいだけでなく、申請が、もうすごく直感的にビジュアルでたどり着きやすいという工夫をしています。恐らくこういう評価項目の申請って難しいと思うのですが、非常に感覚的に登録作業やりやすいっていう、その辺りも意識しています。申請しようかなと思ったけど難しくてやめる方もいらっしゃるなかで、それが非常に簡単だったらスムーズに行く、そういうところもあるかとも思いますので、もう一度あらためて、川崎市の担当であったり、またその他の視点も含めて、特に要因は何なのかも深掘りしながら、しっかりそこで大田区としても押さえられるべき部分は、しっかりと押さえたいと考えております。

○村木会長

ありがとうございます。他にご意見ないようでしたら、次に話題に移りたいと思います。続いて議題2大田区オリジナルSDGsロゴマークについて、SDGsの達成に向けた区民、企業、関係団体の行動変容について、事務局からご説明お願いします。

○野村企画調整担当課長

では、事務局資料について説明いたしますので、続きましては資料4の2ページをご覧ください。今、モニターに映っているページになります。前回会議で、公募によってオリジナルロゴを作成する旨をお伝えさせていただきましたが、先ほど冒頭、齋藤からも説明がありましたとおり、全87件の応募作品の中から5点に絞り区民投票を実施しましたところ、合計で1万2731件の投票があり、最も多くの票を得ました、こちらの案に決定いたしました。

この作品には、大田区にある羽田飛行機の飛行機をモチーフに、空を飛び、変わりゆく天気に対しても前に進んでいく飛行機のように、大田区も変わりゆく時代に対してどんどん前に力強く進んでほしいといった製作者の思いが込められています。

続いて、製作者は授賞式の様子とともに3ページに記載しておりますが、先ほど齋藤からも話がありましたが、区立大森第七中学校2年生の高橋麻衣さんでして、まさに昨日、21日に区長から高橋さんへの記念品授与式を開催いたしました。

また、この高橋さん、このロゴの作成の経緯をお伺いしましたところ、よくデザイナの方、専用のイラストレーターとかそういうものを使われていますが、なんとスマートフォンのアプリ、しかも専用のタッチペンなんかを使わずに、手と、そのアプリだけで作られたっていうことでして、ちょっとわれわれの年代からじゃ想像もつかない方法でロゴを作られているということで、もう今、時代が変わっ

ていることを痛感したところでございます。

また、この記念品の制作につきましては海老名委員にもご協力いただきましたので、4ページでご紹介させていただきます。

記念品は、羽田イノベーションシティに入居していらっしゃいます、以前、このメンバーでも視察をさせていただきましたが、ものづくりスペシャリスト集団であるMETALISM様に制作していただきました。この作品は、左の図の写真の方にありますが、世界地図の中から大田区を浮かび上がらせることで、世界のSDGsを大田区がけん引していくという意気込みを表しております。

また、写真のこの上部のOTAの青色は、こちら、色を塗っているわけではなく、チタンの陽極酸化によって鮮やかな青色を表現しております。こちら、まさに海老名委員のエビナ電化工業株式会社様にご担当いただいた部分となっております。

また、ちょっと写真ですと少し分かりにくい部分もあるかもしれませんが、この上に乗っかっている大田区の地図につきましては、表面は実際、触ってみるとフラットですが、フラットにもかかわらず、でこぼこ感があるように表現されているという、以前、推進会議で見学させていただきましたMETALISMの壁と同じ技術の、その加工が施されております。こちらは株式会社藤田ワークス様にご担当いただきました。

また、大田区と世界地図をつなぐ17色の塗装は、長年の経験と知識をもとに一つ一つ手作業で行いまして、SDGsの17ゴールの順に配色されております。こちらは有限会社望月塗工研究所様にご担当いただきました。

最後、土台の世界地図の黒線の部分は、こちらも色を塗っているわけではなく、レーザー加工によりまして光の反射をコントロールすることで黒く見えるようになっております。ですので、こすっても絶対に色が落ちるようなこともないという、そういった特殊な技術で加工していただいております。こちらは株式会社リップス・ワークス様にご担当いただきました。

以上のように、まさにこれは仲間回しの一つかと思われませんが、大田区の技術の粋を集めた一点物の記念品を制作していただきまして、昨日、制作者の高橋様にお渡しさせていただきました。受賞式の様子や記念品の詳細につきましては、区のホームページ等でも公開してございます。

こちら、ロゴが新しく決まりましたので、未来都市選定を記念した本庁舎へのステッカー等を掲載しておりますが、このステッカーの、それぞれSDGsカラーホイールの部分につきましては、今回、制作しました新たなロゴを上から貼る形で差し替えをさせていただく予定です。

また、資料7ページでは名刺への記載や、ロゴ使用のガイドラインについて掲載しております。ロゴはホームページからダウンロードできまして、また使用に当たっての事前申請等は不要としております。区民や企業の皆さまに、ぜひ積極的にご活用いただきたいと考えておりますので、積極的に活用してもら

ためには、区がこういう周知をした方がいい、そういったご意見ございましたら意見交換の際に、その旨、ご発言いただけますと幸いです。

続いて、8ページ以降ではSDGsの達成に向けた区民、企業、関係団体等の行動変容について説明いたします。行動変容につきましては前回会議でも説明させていただきましたが、その後、行動変容に向けた他自治体との連携という点で動きがありましたので、本日は、その点について説明いたします。

まず、9ページをご覧ください。こちらは東京都との連携になります。実施内容の1文目に記載しておりますが、東京都は令和5年度より各地域で開催される既存イベントに区市町村と連携してワークショップを出展するという形で、行動変容に向けた取組を行っております。

資料の右側のポスターに記載がありますとおり、市長になり切って楽しく遊ぶカードゲームのような形で実施しているそうですが、内容が完全に出来上がっているわけではなくて、こちら、実施内容の4文目にも記載がございますが、開催自治体が選択した優先テーマを設定できるということです。また使用するカードは開催自治体ごとに作成するということでしたので、例えば未来都市計画を推進する際には計画と親和性のあるゴールを選んだり、また逆に未来都市計画以外のゴールを重点的に推進する際には、あえてそのゴールに関するテーマを設定したりと、ある程度、柔軟に実施できる取組となっております。

資料の10ページでは、今年度の都の取組の様子を掲載しておりますが、大変、こちら、好評だったと伺っておりますので、来年度は大田区でも、こちらを実施していただく形で検討を進めております。

では、続いて資料11ページをご覧ください。こちらでは、高木副会長がSDGsアドバイザーを務めていらっしゃる、また参与を務めていらっしゃる亀岡市との連携に向けた取組を紹介させていただきます。前回会議後に高木副会長から亀岡市の取組を紹介していただいたことをきっかけに、現在、亀岡市のご担当と今後の連携に向けた検討を進めておりますので、その状況について本日は報告させていただきます。

亀岡市では、今、資料にロゴフォームとございますが、こちら、大田区でも採用しているシステムですが、こちらで、まず業務の場面ごとに留意事項を整理とありますが、例えば右側にあります会議を開催する際には、この会議を開催にチェックして、その後、取り組んだ項目にチェックをするという形になっております。こちらは次のページで、もう職員のポータルサイトに取り込まれた形で稼働しております。SDGsチェックリストを選択し、部署を選択しまして、会議を開催、何に取り組んだかというものを記載することになっておりますが、こちらは、例えば会議を開催する際に、あらゆる担当がこれをチェックすることで、次にどういうことをやるか、そういったことを確認するという機能もございますし、逆に、このチェックが付いてないところにつきましては、なかなかこの行政の組織

内で取組が進まないっていうところになりますので、そういったものをあぶり出して改善していく、そういったことにも両側面で活用できるかと思います。

こちらにつきまして、今、亀岡市さんの方から、ありがたいことに大田区でも、このロゴフォームを使っておりますので、このシステムのもとをいただくことで大田区でも活用できるので、今、一緒にやりましょうと、お声をお掛けいただいております。その一緒にやりましょうという内容が、現在、亀岡市さんの方でも、このそれぞれのチェックのデータを集めているそうでした、どういう項目ができているか、どういうところができていないか、そういったものを集めていらっしゃるそうです。

大田区以外にも少し連携のお声掛けしている自治体が他にもあるそうですが、例えば一つの自治体だけで、このデータを分析するのではなく、他自治体と一緒に、それぞれこのデータを集約して分析することで、どの自治体でもうまくいってないところがあれば、それはしっかり行政として、なかなか押さえ切れない、そういったところをあぶり出すこともできるかと思いますが、また逆に、それぞれが改善に取り組んで、うまくいった情報なんかはしっかり共有していくことで、その自治体同士で連携しながら効果的に、この改善を進めていくことができるので、ぜひ一緒にやりませんかというありがたいお声掛けを、副会長のご紹介もあり進んでおりますので、この辺り、しっかり連携しまして、こういったデータなんかを集めながら、しっかり区の職員に、まずこの意識をしてもらうことと、なかなか進まないところには他自治体の改善例も参考にさせていきながら進めさせていただきたいと考えております。

以上、本日はオリジナルSDGsロゴマークの決定につきまして、ご紹介させていただきましたので、まず意見交換のポイントとしましては、大田区オリジナルSDGsロゴマークをどのように活用していくべきか、ぜひ皆さんにも使っていただき、このロゴマークを旗印に大田区のSDGsを推進していきたいと考えておりますので、逆に皆さんの立場から、こういうふうなことを区がやってくれと、しっかり皆さんが使ってもらい、またその結果、大田区のSDGsが進んでいくのではないかと、そういったご意見をいただければと考えております。

また、SDGsの達成に向けた区民、企業、関係団体等の行動変容に向け、どのような取組を行うべきかと。先ほど連携事業を紹介させていただきましたが、もちろん来年度、大田区でも自前でしっかり行動変容の取組をやってまいります。ただ、しっかり先行してやっているところであったり、連携できるところはしっかり連携して、そういったものも活用しながら、しっかり進めていきたいと考えておりますので、それに関するご意見であったり、あと、まさに参与を務めていらっしゃる高木副会長からも、もしこの取組なんかについてご意見をいただければと考えております。では、事務局からの説明は以上となります。

○村木会長

ありがとうございました。それでは、議題2の大田区オリジナルSDGsロゴマークについて、SDGsの達成に向けた区民、企業、関連団体の行動変容について、ご意見やご質問があったら、お願いしたいと思います。いかがでしょう。

ロゴマークは飛行機の横にSDGs未来都市大田区っていう字までが入って、これで一つのデザインですよね。字を外して使うとか、その辺り、どんなふうに見えるのでしょうか。

○野村企画調整担当課長

こちら、ホームページで公開されているロゴマークのガイドラインとなっておりますが、文字とセットで使うことも可能ですし、文字と分離することも可能となっております。また、当然、国際都市ということで、英語版も作成しておりますので、こういった形で必ずしも文字が日本語で横にセットじゃないと使えないというわけではありません。そういった使い方をガイドラインで整理しております。

○村木会長

これは区内の区民、企業の方、みんなこれが使える、そういうことですね。

○野村企画調整担当課長

あえて事前申請は不要とし、使いやすくしておりますので、もちろん勝手に、このデザインを変えたりとかは禁止にしていますが、区のホームページからダウンロードして使える形にしております。

○村木会長

分かりました。それがまた周知されるようにしないと、みんながよく分からないってことかなと思います。その辺りは、どうするのでしょうか。

○野村企画調整担当課長

今、このロゴが決定した段階でありますので、まず、このロゴ自体の決定について周知をしまして、いくつかの新聞なんかでも取り上げていただきました。授賞式も昨日行われたばかりですし、これが区民の皆さまに浸透していると言いはり難い状況かと思っておりますので、逆に行政側が、いろんなイベントだったり取組があるので、その際に、しっかりこのロゴを打ち出していったり、コンセプトを一緒に打ち出していくことで周知できるかと考えております、そういったものもやっていく予定です。逆に、その周知に関して、こういうことをやるといいのではないかというご意見もございましたら、本日、いただければと考えております。

○海老名委員

これは、バッジを頂けるのでしょうか。

○野村企画調整担当課長

検討させていただきます。最終的には有償での販売とかもあったりするかと思いますが、確かに、しかるべく関係の方には付けていただくことが、またPRになるかと思っておりますので、その辺りは検討させていただきます。

○村木会長

男性は付けた方が目に付くので、バッジを作った方がいいというのが私の感想です。他、いかがでしょうか。

○北村委員

例えば、いろんな申請書類が区役所にあると思うので、右上か左上に、どんな書類にも付けるとか、ウェブでの申請書類とかもあると思いますが、目立つ所に貼っていくと、視認性は絶対高まって、老若男女の方の目に触れる機会になると思います。

○磯委員

大田区には商連というものすごい団体があって、加盟している商店街にこういう旗、横断幕をやったら、一気に一般人の目に触れると思います。なかなかホームページだけ見るように言っても年代的には限られます。一般区民は買い物や外に出ますから、商店街にいろんな旗だとか横断幕とかやってやったら一気に、それは認知されると思います。

○高木副会長

磯委員からコメントいただいたところにさらに関連して、亀岡市では、とあるスーパーマーケットさんにご協力いただいて、例えば手前取りとか地産地消とかSDGsに即した行動を促せるようなポップを作っていたいただいて、そこにマークを付けるとなると、より具体的に何をすればいいかっていうものも相まって広まっていくのかなと思います。ロゴが広がるのは大変、大事なことだと私も思いますが、ロゴだけでなく、例えば具体的な行動とか、これをすればSDGsなんだなっていうものと一緒に併せて広めていくっていうのはアイデアかもしれません。

○北村委員

個人的には、ロゴの応募件数が87件っていう以上に、投票件数1万2000件って結構、評価していいと思います。興味を持っていただいた1万2000人強の方々ってSDGsに対する意識が比較的、高いのかなと思いますので、こういう方々に、より発信して広めてくださいっていうことは、共感を呼んで発信していただけるのではないかと思います。

○高木副会長

SDGs未来都市大田区という、この言葉を広めることは、もちろん当然、重要ですけれども、これが広まるというよりも、SDGsを達成するために例えば何ができるのかとか、そういうことが広まるのが非常に重要なので。これはもちろん重要です。重要なのは分かっていますが、これを広めることを目的化し過ぎると、マークだけが広がるってことはもちろんないとは思いますが、それと併せて何かSDGs達成っていうものを皆さんに考えていただく、そんなようなものもセットで考えていくといいかもしれません。

○村木会長

ありがとうございます。その辺りが、この意見交換のポイントの二つ目のSDGsの達成に向けた区民、企業、関係団体の行動変容にどんな取組を行うべきかだと思います。このどんな取組を行うべきか、促進させようとするれば、インセンティブが必要ということなのかもしれないですね。

他自治体のインセンティブはどのようなものがありますか。企業は、さっきのもあったかもしれませんが、行動変容で幅広く区民とかについての行動変容を広げるために、インセンティブで何かやっているところはありますか。

○高木副会長

今、板橋区さんが「いたばしさんぽ」という名前のSDGsのすごろくを作っています。これは板橋区に一体、どういうSDGsと関係した施設とかものがあるのか、そういうものを三浦太郎さんという、板橋出身の絵本作家さんと一緒に作った、すごろくをやっています。これを授業でやってもらうというのをされていて、これを行うと何がいいかという、板橋のことを知ることができる、板橋とSDGsとのつながりを知ることができるっていう、この二つの要素があって。つまりSDGsを伝えるだけでなく、大田区とSDGsとのつながりとか、大田区でできるSDGsのアクションとか、そういったものを考えながら、このイベントっていうのは打っていった方がいいのかなと思いました。

○北村委員

ちょっとずれるかもしれませんが、個人的にはすごく感銘を受けたことがあります。私どものお客さまですけれども、SDGsに取り組まれている会社さんで、サステナビリティ・リンク・ローンに取り組んでいただいた意識の高いお客さまです。

それで、先日、福島にある工場にお邪魔しました。もう社長さんが70歳後半になってらっしゃいますが、どうにかしてSDGs、社会貢献するとおっしゃっていて、矢吹町という所ですが、周辺の企業さんを巻き込んで、水素をエネルギーとして使おうということに本気で取り組んで、福島県まで巻き込んでいます。そ

の社長さんは都内にお住まいだったのに、矢吹町に自宅を建てて、もう本当に本気になってやってらっしゃって、まず周辺の方々も巻き込んでいます。

それから、会社にお邪魔した目的として、社員の皆さんがどのように考えてらっしゃるのかなっていうことを伺いに行きました。もう本気で社員の方々から、どうやったらCO2減らせるかとか、電気代、電気の使用量を削減できるかとか、太陽光パネルを付けてらっしゃいますが、どうしたら、もっと電気、使用電力を減らせないかとか、ものすごく一生懸命、考えてらっしゃって。最初は社長さんが1人で、ひたすら発信して、でも誰も付いてくれなくてってところから始まって、3年から4年ぐらいかけてだと思いますが、非常に意識が高まっていらっしゃる。究極的には、その会社のホームページを見て、地元でこんなにSDGsに取り組んでいる会社があるって初めて知った、どうしてもここで働きたいと言って転職してきた40代の営業の方がいらっしゃいました。

そんなことに近いことで、もしかして皆さんのMETALISMさんのところで集まっている企業さんとか、何か行政も大田区さんも絡んで、いくつかのプロジェクトというか、走らせたりして、波及的に、そういったことに取り組む企業さんを増やしていけることって、もしかしたらできるのではないかという気がしています。大変だと思いますが、行動変容という意味では横展開をしていくための一つの方法なのではないかなという気がしています、大田区さんでも、我々も何かお手伝いできないかなと思っています。

○村木会長

ありがとうございます。今、北村さんのお話を聞きながら思ったのが、前に大丸有であったことですが、アプリのポイントをSDGsとくっつけるということがあって、そこからすると、例えば商店街の買い物ポイントの一部がSDGsと連動させるとか、または商店街でくじ引きしたときの商品がSDGsと関連付けられるようなものにするとか、ものは考えようかもしれないけど、そういう身近なことと連動させると区民の行動変容と遠いかもしいですけど、近づいていけるとよいと思いました。

○磯委員

この前、『アド街ック天国』で蒲田をやりましたね。ものすごく盛り上がりましたね。地元では、そういう話題になりまして、蒲田の食、もっと言うと大田区の食を絡めて、インセンティブを考えられるとよいと思いますし、すごい一般区民にも広がると思います。

○高木副会長

行動変容というところまでいくと、なぜこの企業が、行動変容ができたのかということのを少し抽象的にというか、具体的にともそうですが、考える必要あるかなと

思っています。例えば、うまくいっている企業さんにインタビューをして、その内容で、なぜうまくいったのかとか、こういう要素がボトルネックを超えられましたとか、そういうのを集めて区のウェブサイトで表現してさしあげるとか、広報に載せるとか、もしくは、さっきおっしゃった商店街とかそういう関係の広報物に載せるとか、そういうイメージもあると、どうやったらいいのかっていうのが具体的にイメージできるのかもしれませんが。それを浜松市や亀岡市も確かウェブサイトです。

○村木会長

ありがとうございます。他、いかがでしょうか。ただ、ウェブサイトって自分から見に行かないといけないので、何か別の媒体がないかなというのは、いつも思います。

○海老名委員

私は世田谷区民なので区報が来ませんが、新年の区報に載せていただいて、大田区民の方は私にLINEで送ってくるので、割と区報を見ている方がいらっしゃるのかなと。大田区民の方に発信するのなら、今、会長がおっしゃったとおり、ホームページよりは、そういうアナログなものもうまく活用して、区報の中に、SDGsの何かの取組を入れていくようなことをやったらいかがですかね。

○齋藤委員

ありがとうございます。おっしゃるとおり、いろいろSNSの発信とかもやっていますが、区報のような、クラシカルな媒体も根強い支持がありまして、それはそれでやっていきたいと思っています。それから最近、若い人へのアピールということになると動画も有効で、SDGsの動画もつくりました。忙しい時代ですので、手軽に見るっていうのが大事なので、やり方の工夫はかなり要るかなと思っていますので、研究させていただきます。

○藤原委員

我々もこういう取組するときに仕組みと仕掛けというふうに言います。仕組みは、どういうふうに本当に仕組みとなって回していくかっていうことで、そこに仕掛けを入れないと、いくら仕組みをつくっても、ちゃんとそれが定着しないっていうところの、この2軸をどうつくるかが重要です。若い人にターゲットに区報をやったって多分、見ないし、そこは、どうYouTube絡めるかとか。

あとは、前回もこの場で私もお伝えしましたが、結構、学校ではいろんなSDGsの取組っていうのが授業で取り上げられているので、今回のこの辺りのロゴのPRも含めて、子どもたちにはどういう授業の中で、どのような取組を入れていくかっていうところも必要です。年配の人に、なかなかホームページ見てって

言ってもそこはいかないので、ここは区報などで、年配の人って見る習慣があるので、この辺りに常に毎回連載で載せながら、そこにちょっとした地元のところで、これ持っていくと割引になりますよ、みたいなのがあったらよいと思います。この辺りの仕組みと仕掛けをうまく融合させながら、ぜひ行動変容につなげていくといいかなと聞いていて思いました。

○村木会長

ありがとうございます。他、いかがでしょうか。7ページのところに齋藤部長の名刺が2枚、パターン1とパターン2とありますが、期間限定でもいいので、盛りだくさんにいろんなものを入れる名刺より、すっきりしたSDGsのマークみたいな、ちょっとカッコいいものを作ってみていただければと思います。

○齋藤部長

補足で、SDGsのカラーホールを利用する際に条件などがありますので、ガイドラインについて説明してもらえますでしょうか。

○野村企画調整担当課長

カラーホイルを横に並べておりますが、横に並べた際にはパターン2の方に記載がありますとおり、注釈として「大田区は持続可能な開発目標を支援しています」を入れるというのがルール化されています。

○村木会長

カラーホイル1個だけだったら入れなくてよいということですか。

○野村企画調整担当課長

上下に並べると、これが要らないとか、いろいろ複雑なものがございまして、このSDGsの大元のロゴと組み合わせる際は、注意する必要がありますので、それを申し伝えておくことと、先ほど会長がおっしゃったように、やはりいっぱい入れるよりはシンプルな方がよいのかなと思います。

○村木会長

シンプルにと言ったのは、このときだけ写真をやめてみるとか、写真は裏のページに行くとか。区の方の名刺って、盛りだくさんだなんていうのが私の印象です。

○齋藤部長

この写真が実は観光名刺といいまして、区の管理職には、12種類あって、大田区の観光名所をPRするようというお達しが来ていまして、この写真を入

れています。

○村木会長

そうすると、配置とかをどうすればいいのかは、もう少し考えていただいて、かっこいい大田区の名刺をぜひお願いします。

他、いかがでしょうか。そうすると、いろいろご意見いただいたと思いますけれども、事務局から聞きたいことはありますか。

○野村企画調整担当課長

最後に2点ほど。まず、1点目です。先ほど北村委員からも、しっかりこの投票にご参加いただいた方に、せっかくなら何とかうまく繋げればということがありました。今回、この件数が多かった要因の一つとしましては、実は区立の小中学校に、皆さんに、この投票の旨をお伝えして、ぜひ、生徒、1人1台、端末持っておりますので、投票をお願いしますと伝えたことが、恐らくかなりの人数がこちらにご協力いただいたのではないかと考えております。

まさに、そういったロゴにも協力いただきましたので、今回、このロゴを印字したオリジナルのマルチエコバッグを区立の小中学生の全児童生徒に配布することを予定しておりますので、恐らくそうすることで自分たちの投票の結果があらためてフィードバックされるとともに、これはこういう過程で選ばれたんだ、じゃあ大田区はSDGs未来都市なので、自分たちもしっかりその意識を持っていこう、そういったものにつながるかと考えております。

あと、もう1点だけ、ホームページからの紹介になりますが、インセンティブの話が出ましたので、直近で他自治体の大きな取組がありますので映させていただきます。

こちら、江戸川区さんが本当、今年度の途中から秋頃に始められたものですが、SDGsのアプリということで、SDGsにいい行動なんかをすると、今、この真横に木の小さい芽が映っておりますが、これがだんだん育っていきながら、かつ、このポイントをためると、左下の方に記載しておりますが、このためたポイントで、福引でキャラをゲットできることもありますし、ドリンクなどと一定、交換できるような、そういった取組をされております。恐らく始められて3カ月程度の新しい取組かと思いますが、江戸川区さんに話を聞いてみながら、実際、これの成果がどうなのかっていうことも踏まえながら、まさに区民にとってもインセンティブ、そういったものを含めながら、また副会長もおっしゃられたように、単純に周知だけじゃなくて、まさに行動に促していくような、そういったものにつなげていければと考えておりますので、簡単ではありますが、ご紹介させていただきました。

○村木会長

ありがとうございました。他にご意見ありますか。それでは、ありがとうございました。議題は以上になります。マイクは事務局にお返しいたします。

○野村企画調整担当課長

村木会長、ありがとうございました。それでは最後に事務局より、来年度の推進会議について説明させていただきます。

来年度の推進会議につきましては、資料5に記載のありますとおり年3回程度の開催を予定しており、第1回は6月を予定しております。まだ日程は確定しておりませんが、第1回会議では、SDGs認証制度の制度案を提示させていただくとともに、またSDGs未来都市計画が、今年度で最初の1年が終わりますので、そういった進捗報告もさせていただきたいと考えております。

また、2回、3回は今、空欄となっておりますが、まさにこの4月からSDGs未来都市推進担当課長と、しっかり体制を整えてまいりますので、今、この段階で来年度やることを全て決めるのではなく、改めて4月からの体制で何をやっていくか、そういったものを第1回会議までにまとめまして、皆さまにお示しさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上をもちまして、令和5年度第3回大田区SDGs推進会議を終了させていただきます。